

階級的労働運動再生の手引き

労大ハンドブックⅢ『やがてくる日と』に学ぶ

第7回

東京ブロック

第七章 1960年、三池闘争313日の激闘（その1）

司会（佐久間）…第七章は、川野さん

の職場や家庭の中の苦労話など歩んだ歴史が述べられています。

東部県協の島田実さんからレポートをお願いします。

313日、たたかいぬくことができたのは

島田…川野さんは、1947（昭和22）年3月に三池工業所本社機械部度量衡に入社。その後、配転、職種変更などもあり1987年11月13日、55歳の定年退職まで40年8カ月間勤

められました。

「貧乏が当たり前」と育ち、従兄弟が煙突から落下し死亡災害があっても抗議もできず、叔母や親戚が「三井さんのおかげ」で働いていけるという、資本主義的常識の長いあきらめの時代に生を受け、まだ14歳という少年時代に三池労働者になりました。

当時は、家族が食うだけで精一杯の生活であつたために、きつい労働であっても辛抱、我慢の実態でした。ですから労働運動に意識的に参加するようになったのはずっと後のことです。

四山坑に入り採炭工となり、英雄な

き113日のたたかいを経験するなかで、「労働者が職場の主人公」という自覚的たたかいに参加することになりました。

会社は、採炭できなければ出炭し販売することはできない。その炭鉱労働者が昼夜を問わず汗水流して一生懸命働くから会社がもうかる。その労働者をエネルギー革命で石炭から石油に代わるからお前らは首だという。こんな理不尽なことは許せない、ふさけるなと怒りが込み上げてきました。職場闘争を支えたのが、学習闘争、家族ぐるみ、地域ぐるみのたたかいでした。

◆みんなの学習講座



レポーターの島田 実さん

番制を納得づくで行うなど、現場での民主化闘争を展開しました。このような職場での職制支配の権限をなく

安全なくして労働なしを旗印に、
職場の民主化をたたかう

1959年当時、三池労働者は1万5160人。川野さんの職場は、四山坑で直接夫の採炭現場です。

賃金は、当時はまだ給料といい、日給制の出来高制で払われていました。採炭工は先山（さきやま）の賃金が一番高く、助先（すけさき）、後向（あとむき）と差別支給されていました。

職制は呼び捨てで、命令調でした。そうした現状を変えるために、さん付け運動や、自分たちで相談し作業の輪

すことで働きやすい、本音で不平不満を言える信頼関係が組合員間にできあがっていきました。

現場では、毎日作業が進展しますから、保安上のことが常に問題になり、当時200mの長壁方式といい、50人が1組で作業しており、何かあったらではなく、保安上の問題点が見つければ職場集会を開き、問題点を明らかにして保安優先の働き方を徹底していました。職場には中央委員と職場で選ばれた払い長が指導力を発揮し職制支配を排除したのです。労働者として当たり前のことですが、この当たり前の職場の民主化が職場闘争の基本で、後の五人組班会議へと発展します。

これを許せない三井は、総資本を動員、政府、マスコミ、官憲、暴力団というあらゆる手段を講じて排除に出てきました。1959年8月28日、第二次合理化案を提示、1963年までに炭鉱労働者11万人を削減すると

いう前代未聞の首切り案を発表、その後組合は団交を重ねてきましたが、1959年10月、団交は決裂。暮れには分裂作動が目立ち、内部に動揺が走る中、職場分会、地域分会・主婦会は内部の団結強化で対応しました。

三井の頑強な構えは動ぜず、1960年1月25日、ロックアウト通告、1200名の指名解雇を強行してきました。三池労組は炭鉱労働者11万人首切り絶対反対を指標に掲げ無期限ストライキに突入しました。

職制、第二組合の妨害を警戒し、留守を守る主婦会

1960年3月29日、川野さんと同じ四山支部の久保清さんが、三井に雇われた暴力団に刺殺され緊張関係が居住地を襲います。そこでは、地域分会や主婦会の留守部隊の役割が大きく作用しました。



地域主婦会の留守部隊 1960年5月

亡き妻や義母は、連日のように50人近い本所支部行動隊や派遣オルグ団の食事作り、この地域での警戒などを行いました。指名解雇された仲間と家族を包み守るため主婦会の役割は大きいものでした。生活革命・家庭の民主化運動にまなんだ主婦たちは、この会社と第二組合、敵権力が一体となった攻撃を垣間見ること、理屈でなく、肌で対資本への怒りを燃やし続けたのでした。

家族会議で1万円生活を

遂行する

闘争支援資金での生活となり、生活を考えてと不安は尽きないのですが、家族みんなで協力し助け合うことで、たたかい続けることはできるという確信があり、月1万円生活を遂行することができました。

保守的な父も変えた三池闘争

川野さんが家族とともに向坂先生の話を身近に聞いたのは、居住地、三池労組本所支部七夕地域分会の闘争本部でした。川野さんの父は、向坂先生の話の聞き「あの先生は社会党の会長さんじゃなかろうか。お前もがんばらんとでけんぞ!」と言って、当時は保守的な戦争遺族会副会長の役職でありながらも、老人会の人たちを連れて、

ホッパ―前のピケ隊に激励に駆けつけてくれるように変わりました。

向坂先生の話は同じ世代であり、「大牟田川は、元は子どもでも魚がとれるほどきれいな川だった。それが今は悪水川に変わってしまった。これは三井のせいだ。責任を取ってもらわねばならない」と同世代にもわかる味わいのある話に共鳴したのだと思います。

やがてくる日に

『やがてくる日に』の詩は、313日のたたかいの中、詠み人知らずとして、発表されたものです。この詩に、三池労働者の未来を見据えた内容が語られています。

司会（佐久間）…川野さんの歩んだ歴史を中心にレポートとしてまとめられました。皆さん、自分の経験から質問や意見を出してもらえますか。

芳賀…昔の京成は、時間外賃金が欲し

◆みんなの学習講座

人は一生懸命に駅長や助役にゴマすり競争があつた。分断を許さず民主化するために、何度も職場で話し合い、時間外の輪番制を確立させた。

福田…39頁、当たり前だけど職場の民主化を闘つて、職種によつて賃金が違ふ、これを自分たちで相談をして作業の輪番を納得づくで決めていくんだ。

それが職場での民主化闘争を展開していった。川野さんの経験だと思ひます。

島田…それは前の英雄なき113日の闘いから長計闘争や到達闘争の闘いの経過の上で書かれています。いきなりになったわけではないと思ひます。従兄弟が死亡災害にあつても抗議もできず家族も含めて、三井さんに文句を言えませんでした。

だけど闘いの経過の中で職種によつて差別されていた賃金、この配分は職制が決めるということとは当たり前ですが、これをなくしたというのが民主化闘争そういう経過がありました。

安全優先の働き方を徹底

田口…レポートにあつたように長壁方式で50人作業していた時に、保安上の問題が見つかったら職場集会を開く、こんなことはいきなりできないでしょう。

結局保安優先は、この前の章の長計闘争で決めたことで、資本は、安全つていうものは金食い虫だ。安全に金をかけない。安全上問題が生じた時は、その場で職場集会を開くと言ふことだよ。こんなことを資本は、許すわけがないじゃないの。

高井…それができたのは英雄なき113日のたたかい。あるいは43スト。何でこれができたのか書いてある。

39頁下から3行目、安全優先の働き方を徹底していた。40頁にこれを三井側は許さないのだから313日も闘いになった。経過で言ふと英雄なき1

13日のたたかい、長計闘争、到達闘争を闘う中で、資本側からとんでもないことを決めちゃったから、これを絶対許せないということで、総資本を動員、政府、マスコミ、官憲、暴力団を含めて排除に出てきた。

芳賀…斜陽産業だから炭鉱労働者は11万人を削減するという提案だった。三池だけは長期計画協定で勝ち取った。他の三池以外のところは協力すると確約した。三鉱連も。三池だけは徹底抗戦だから、削減できないから指名解雇、首切られてからハチマキをしても遅い、だから今から準備しよう、長計闘争をやつた時に。その論点は、徹底的な向坂教室の学習会、労働者が主人公なんだから、「おいこら」と呼ばれる筋合いはない。我々が働かなければ一欠片の石炭も運び出せない。一番危険な作業をやっている。会社は、その次には分裂策動として、一部の組合員を抱き込んで第二組合に働きかけた。一枚

岩にさせちゃだめだということをやつてきたんでしょ。

高井…でもさ、そういう風にして順番制にするにしても組合に力がないとできないよね。三池の中でも向坂先生を中心にして学習会があったからこそ闘えたんだということが、中身としては書いてあるね。

労働者が社会の富を生み出す

芳賀…社会の主人公は労働者、労働者は社会の富を生み出しているんだ、ということ、職場でも主人公は自分たちだ。労働組合は職場にある。職場に労働組合を作らなきゃいけないということだ。

とかく労働組合の幹部が一番で、組合員は金だけを払えばいいんだ。そういう労働組合もあるんじゃない。
司会（佐久間）…前回、長計闘争があったからね。首を切らない、労働条件

は下げない、保安を優先する、を決めたという。普通は考えられないね。

芳賀…テキスト39頁の最後から40頁の頭に、「職場の民主化が職場闘争の基本で、後の五人組班会議へと発展します」とある。組合というのは不均等発展する、全員100人が100人同じように動くわけではない。そのうちの核となる部分が5人に1人、10人に1人できたということだ。これは、50人1組の作業で、そこには中央委員と職場委員の人が居たわけだからできたと思います。

司会（佐久間）…三池はそういう闘いをしてきた。三井資本は40頁に書いてあるように、総資本を動員してきたということでしょう。

福田…三池以外は、資本の合理化に協力することを呑んだんでしょ。
司会（佐久間）…炭労は、ここまではいっていかなかったんだよね。
田口…条件闘争的になったんだよ。三

池がこれだけ闘ったんで、第八章で出てくるけど、炭労もお前んとく勝手にやれといかなくて、総資本対総労働の闘いへと発展していったわけ。

司会（佐久間）…第六章の長計協定、首切らない、労働条件は下げない、保安を優先する、資本からは、これはやっぱり許せない。

芳賀…34頁に書いてあるけど、三井は10年間にわたる合理化計画を出したんだよ。それが一つも遂行されず長計協定で約束させられたんだよ。

1200名指名解雇強行

島田…資本側からすれば、経団連は、能なしやろうと怒ったと言っただけ当たり前だよ。それを潰すということ、11万人合理化首切り、三池には1200名の指名解雇を強行したんでしょ。
渡邊…ロックアウトを通告し1200名の指名解雇強行します、とレポート

◆みんなの学習講座



地域の老人会の激励行動 1960年7月

で報告されましたが、ロックアウトとはどういうことですか。

檜崎…ロックアウトを三井資本がやっただでしょう。採炭で労働者を炭坑に入れたって、石炭が上がつてこないから労働者を入れさせなかったんでしょう。**渡部**…やむなく指名解雇という形でしかできなかった。その前に「ロックアウト」というのがあります。このメン

バーは、知っているかも知れないけど、今の若い人は、知らないんじゃない。

島田…労働争議における資本家側の対抗手段として、工場などを一時閉鎖し、労働者の就業を拒否すること。工場閉鎖、作業所閉鎖、事業所閉鎖などがあります。

芳賀…学習闘争と民主化闘争、地域分会主婦会結成。保守的な親父さんとも、向坂先生の話聞いて、お前も頑張れよ。ピケ隊の激励に駆けつけてくれるように大変な変わりようだとあります。**渡部**…保守的な親父さんも変わつた。

向坂先生は、労働者階級だとか社会主義だとか難しい話はしていない。親父さんにもわかるような話で、普通は九州大学の先生だし、資本主義を倒す、社会主義をめざす、と言うと思うけど、そういうことじゃないですね。

檜崎…闘争支援金1万円での生活とありますが、当時の1万円は今の貨幣価値に直すといくらになりますか。

島田…1960年当時の大卒初任給が約1万3000円でした。2020年は約21万円なのでおよそ16倍だから16万円位ではないでしょうか。

当時の冷蔵庫の値段は大卒初任給の約5倍、現在はほぼ同じです。物価変動があるから単純比較はできないです。**渡邊**…保守的な親父さんが向坂先生の話聞くようになった、きっかけは、なんだつたんですかね。

高井…義理の弟さんが1200名の首切対象者となつて、家族もどうしたものかと就職などを個人でなんとかしようと考えていたときに、とあります。

司会（佐久間）…今日は島田さんから、川野さんの歩みを報告してもらい、労働者・家族がたたかいで成長する姿を学びました。

次回は、第八章を南部県協の仲間から、313日闘いぬいた背景とその成果と課題をレポートしてもらい、学習したいと思います。